



正解のない時代を生きるために

学校長 のむら 野村 ひかる 光

秋の深まりとともに、朝夕は過ごしやすい季節となりました。校庭には子どもたちの元気な声が響き、実りの秋を感じる頃となりました。今年は各地で豪雨や台風による大きな被害が相次ぎました。被害に遭われた皆さまに心よりお見舞い申し上げるとともに、尊い命を失われた方々に深く哀悼の意を表します。

地域や保護者の皆さまには、日頃より登下校の見守りや教育活動へのご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。皆さまの温かな支えに見守られながら、子どもたちは仲間と関わり合い、学びを深めながら日々成長しています。年度の折り返しを迎えた今、「できた」「分かった」「やってみたい」という姿に、教職員一同大きな喜びを感じています。10月は、学習がさらに深まる時期です。自分の考えをもち、友達と伝え合いながら学びを広げていく場面が増えていきます。本校では、探究的な学びやICTの活用を進めながら、「自ら学び、自ら考える力」の育成を大切にしています。

その一環として、先日、6年生の子どもたちが「生成AIとのよりよい付き合い方を考えよう」という学習を行いました。「ChatGPTは何歳から使えるのだろうか」「なぜ年齢制限があるのだろうか」「小学生が一人で使ってはいけないのはなぜだろう」「生成AIと友達になれるのだろうか」といった問いについて、子どもたちは友達と意見を交わしながら真剣に考えていました。学習後には、「AIは便利だけれど、そのまま信じてはいけないと思った」「個人情報を入力してはいけないことが分かった」「AIには感情がないから、人間が最後に判断することが大切だと思った」など、多くの気づきが聞かれました。子どもたちは、生成AIの便利さだけでなく、その使い方や向き合い方についても主体的に考えていました。

生成AIをはじめとするデジタル技術は、瞬く間に私たちの生活や学びの中に広がり、大きな変化をもたらしています。しかし、どれほど技術が進歩しても、人の気持ちを考えたり、相手を思いやったり、何が正しいのかを判断したりすることは、人間にしかできません。これからの時代を生きる子どもたちには、新しい技術を上手に活用しながらも、自分の頭で考え、自分の言葉で表現し、よりよい判断ができる力を身に付けてほしいと願っています。

本校では、デジタル学習基盤を活用した授業改善に取り組み、子どもたち一人ひとりが学び方を選び、自ら考えながら学びを深めていく授業づくりを進めています。12月18日には、全国から多くの教育関係者の皆さまをお迎えし、本校の教育活動を公開する予定です。日々の実践の積み重ねではありますが、子どもたちが主体的に学ぶ姿から、本校の取組の一端を感じていただければ幸いです。

最後に、洋二小が大切にしている「めざす子どもの姿」を改めて確認します。

- ① 相手を意識した、しっかりとした挨拶ができる子
- ② 自分で考え、進んで挑戦する子
- ③ 自分も大事、相手も大事にできる子



生成AIをはじめとする新しい技術が急速に広がる時代だからこそ、この3つの姿はこれまで以上に大切になると考えています。どれほど技術が進歩しても、人の気持ちを考えたり、仲間と協力したり、自ら判断したりすることは、人にしかできません。子どもたちには、自分の考えを大切にしながら仲間と学び合い、自ら未来を切り拓いていく力を育ててほしいと願っています。学校としても、その成長をこれからも丁寧に支えてまいります。